

## 拒絶理由通知書

特許出願の番号 特願 2003-307095  
起案日 平成16年 9月28日  
特許庁審査官 近藤 裕之 2923 3M00  
特許出願人代理人 小野 由己男 (外 1名) 様  
適用条文 第29条第2項

この出願は、次の理由によって拒絶をすべきものである。これについて意見があれば、この通知書の発送の日から60日以内に意見書を提出して下さい。

## 理 由

この出願の下記の請求項に係る発明は、その出願前日本国内又は外国において頒布された下記の刊行物に記載された発明又は電気通信回線を通じて公衆に利用可能となった発明に基いて、その出願前にその発明の属する技術の分野における通常の知識を有する者が容易に発明をすることができたものであるから、特許法第29条第2項の規定により特許を受けることができない。

記 (引用文献等については引用文献等一覧参照)

- ・請求項 1
- ・引用文献等 1
- ・備考

引用文献1には、「二重部材の補助プレート52は第1層52a及び第1層52aの背面に位置される第2層52bを包含できる。第1層52aは強化ガラス又は透明な合成樹脂で製造され、光を透過させる。また、第2層52bは第1層52aを透過した光を反射させ、このために金属薄膜又は誘電体多層膜となる。金属薄膜は第1層52aの背面を研磨して塗布される銀やアルミニウム膜となり、誘電体多層膜は第1層52aの背面に蒸着される。かかる補助プレート52で室内機の前面に入射された光は第1層52aを透過して第2層52bで反射されることによって吸入パネル50は全体的にミラーとして作用する。また、第2層52b所定のカラーで彩られ、かかるカラーは透明な第1層52aを通して露出される。なお、単一部材の補助プレート52は多様な模様及びカラーを包含できる。特に原木形態の模様及びカラーは室内機に上品なイメージを与える。従って、このような補助プレート52によって空調装置の外観は更に向上され得る。」

(引用文献1の[0114]段落参照)と記載されている。

上記記載を参酌すると、本願請求項 1 に係る発明と引用文献 1 記載の相違点は、本願請求項 1 に係る発明では、透明な材料によって形成される特定部は輝度のある粒子が混入されるものであるのに対して、引用文献 1 では、第 1 層に輝度のある粒子が混入されるとは記載されていない点である。

引用文献 1 には、「なお、単一部材の補助プレート 5 2 は多様な模様及びカラーを包含できる。」（引用文献 1 の[0 1 1 4]段落参照）と記載されているように、模様やカラーなどの発光形態を適宜変更することは自在であると示唆されていることから、これに基づいて、輝度のある粒子を混入するようにすることは、当業者であれば所望により適宜決定し得る設計事項である。

- ・請求項 2
- ・引用文献等 1
- ・備考

引用文献 1 のものは前面に配置されている。

- ・請求項 3
- ・引用文献等 1
- ・備考

引用文献 1 のものにおいて、表面は概ね平らに形成されている。

- ・請求項 4
- ・引用文献等 1
- ・備考

引用文献 1 のものにおいて、第 2 層は不透明な材料で形成されている。

- ・請求項 5
- ・引用文献等 1
- ・備考

引用文献 1 には、「第 2 層 5 2 b 所定のカラーで彩られ、かかるカラーは透明な第 1 層 5 2 a を通って露出される。」（引用文献 1 の[0 1 1 4]段落参照）とあるように、意匠層（第 2 層）には輝度のある色彩が表される。

- ・請求項 6
- ・引用文献等 1
- ・備考

引用文献 1 には、「二重部材の補助プレート 5 2 は第 1 層 5 2 a 及び第 1 層 5 2 a の背面に位置される第 2 層 5 2 b を包含できる。第 1 層 5 2 a は強化ガラス又は透明な合成樹脂で製造され、光を透過させる。また、第 2 層 5 2 b は第 1 層 5 2 a を透過した光を反射させ、このために金属薄膜又は誘電体多層膜となる。

金属薄膜は第1層52aの背面を研磨して塗布される銀やアルミニウム膜となり、誘電体多層膜は第1層52aの背面に蒸着される。かかる補助プレート52で室内機の前面に入射された光は第1層52aを透過して第2層52bで反射されることによって吸入パネル50は全体的にミラーとして作用する。また、第2層52b所定のカラーで彩られ、かかるカラーは透明な第1層52aを通して露出される。なお、単一部材の補助プレート52は多様な模様及びカラーを包含できる。特に原木形態の模様及びカラーは室内機に上品なイメージを与える。従って、このような補助プレート52によって空調装置の外観は更に向上され得る。」(引用文献1の[0114]段落参照)と記載されている。

上記記載を参酌すると、本願請求項6に係る発明と引用文献1記載の相違点は、本願請求項6に係る発明では、透明な材料によって形成される特定部は輝度のある粒子が混入されるものであるのに対して、引用文献1では、第1層に輝度のある粒子が混入されるとは記載されていない点である。

引用文献1には、「なお、単一部材の補助プレート52は多様な模様及びカラーを包含できる。」(引用文献1の[0114]段落参照)と記載されているように、模様やカラーなどの発光形態を適宜変更することは自在であると示唆されていることから、これに基づいて、輝度のある粒子を混入するようにすることは、当業者であれば所望により適宜決定し得る設計事項である。

#### <<補正等の示唆>>

(1) 明細書を補正した場合は、補正により記載を変更した箇所に下線を引くこと(特許法施行規則様式第13)。

(2) 補正の際には、補正は、この出願の出願当初の明細書又は図面に記載した事項のほか、出願当初の明細書又は図面に記載した事項から自明である事項に限られる点に注意し、意見書で、各補正事項について補正が適法なものである理由を、根拠となる出願当初の明細書の記載箇所を明確に示した上で主張されたい。

なお、上記の補正等の示唆は法律的效果を生じさせるものではなく、拒絶理由を解消するための一案である。明細書及び図面をどのように補正するかは出願人が決定すべきものである。

#### 引用文献等一覧

1. 特開2003-014249号公報 *LSK*

・調査した分野 IPC第7版 F24F 1/00-1/02

・先行技術文献

1. 特開2000-161706号公報

*newly cited, but not relied on.*

2. 特開2003-322355号公報

*newly cited, but not relied on.*

この先行技術文献調査結果の記録は、拒絶理由を構成するものではない。

この拒絶理由通知の内容に関するお問い合わせ、または面接のご希望がございましたら下記までご連絡下さい。

特許審査第二部 冷却機器 近藤裕之

TEL. 03(3581)1101 内線3375

FAX. 03(3501)0672